

(財)北海道教職員厚生会教育活動奨励助成事業

# 「後志教育講演会」

兼 第四十回後志管内教職員夏季研修会

## 『今、子どもたちは…』 私たちにできること、しなければならぬこと



### 講師 水谷 修 氏

期日 平成一九年八月九日(木)  
会場 ニセコ東山プリンスホテル



〔講演の記録より〕  
現在水谷氏は全国で講演をする傍ら、月曜から木曜までは主に子ども達からのメール相談を受け、週末は午後十一時以降に各地の繁華街に行き、中高生と思われる若者達に「帰りなさい。何かあるならこの水谷が朝まで相談に乗る」と声を

かける『夜回り先生』をしている。子ども達の相談を受ける中で水谷氏は、「子ども達に関わる諸問題の原因は我々大人の側にある」と断言している。「経済の不安定さ、不況によるリストラ等社会は様々なストレスを抱えるようになってきた。一例として、そのストレスを家庭に持ち込み、父親が母親に不満をぶつける。母親は父親から受けた不満を子どもにぶつける。子どもは親から受けたストレスをどこに発散すればよいのか。その果てがいじめやリストカット、薬物など非行問題に繋がっている。また、問題を深刻化させている原因に『携帯電話』がある。携帯電話の使用をなくすれば不登校の七〇八割、深刻ないじめの五割は減少する。更に深刻な非行問題に『薬物使用』がある。北海道は大麻の自然自生などもあり、全国的に見て環境的には良くない状況にある。ここで大切なことは『薬物依存症は病気になる。病気が愛の力では治せない

い。病気が専門家は。医師の治す療が必ず必要と。治療の認識を。持つことと。水谷氏は主としてこの様な問題を対して。この様な問題は水谷氏はこう訴えたい。『人は自己肯定感が出る。子どもは愛情を注げば非行には走らない。仮に非行に走っても浅い傷で元に戻る。また、子どもは自分が悪いことをしたことを十分認識している。大人は感情で叱ってはいけない。何よりも家庭が円満であることが大切である。子どもは不完全だからこそ『子ども』なのである。正義だけでは子どもは改善されない。過去の問題を責めるだけでは大切にする。本当はどの子どもも大人に優しくしてほしがっている。子どもが困った時に一番身近な大人が一緒に悩み考えること。子どもを救うには『一人の大人が優しく寄り添うこと』が大切である。』

最後に水谷氏は講演を続ける理由を「子ども達を夜の世界から昼間の世界に戻して講演を続けている。自分には講演を通してしかそれが出来ない」と語った。

